

■赤松氏範 武将。南朝の忠臣。

あかまつうじのり

疎石円覚寺・1329= 則村(円心)の四男として生まれる。

鎌倉幕府滅亡1333= 4歳 :

南北朝分裂・1336= 7歳 :

足利尊氏将軍1338= 9歳 :

後醍醐天皇没1339=10歳 : 後醍醐天皇の崩御後,

五山制定・・・1342=13歳 : 兄弟は多数あったが、**武勇の達人で大力無双の勇者で、**
ようやく反乱軍を鎮圧した**父則村から南朝に奉公させるべく選ばれ、** '汝南朝に一命を奉り官仕えいたすべし、これ大塔の宮(護良親王)への報恩なり'と諭され、

・・・・・・1347=18歳 :

観応の擾乱始1350=21歳 : *父が死去すると、その命を守り、**観応擾乱にあっても南帝に仕え、終始節を変えず南朝のために忠誠を捧げ、飽くまでも順逆の道を踏み誤らず、**

・・・・・・1351=22歳 : *南朝に帰順し、**護良親王の皇子陸良親王を奉じて兵を集め、南北朝合一をもたらそうとして果たせず、再び足利方に与党した兄則祐から、足利将軍に仕えるよう度々言い送られても、節を曲げず南朝帝に仕え、その忠義をめでた後村上天皇から桐に鳳凰の御旗を与えられ、御紋を用いることを許されると、その恩に報いるべく再三京都攻略に加わり、北朝方を散々に破る。**

観応の擾乱終1352=23歳 :

菟玖波集・・・1356=27歳 :

その後、南朝御所吉野の赤松宮(大塔若宮)のもとに仕え、

・・・・・・1360=31歳 : *赤松宮反逆の挙に加わって、**南朝賀名生宮を焼討ちにするも、北軍の反撃に総崩れとなり、身を挺して防戦につとめ、赤松宮を奈良に落とさせた後に降伏し、吉野を去って兄則祐のもとに帰る。**

・・・・・・1361=32歳 : 摂津国中嶋郡・同有馬郡・備前馬屋郷を領し、有馬郡三田城に居城を移し、取り囲むように、嫡男氏春に道場河原佐々城、次男家則に桑原大浪山城、三男祐春に船坂城、四男季則に福島岡山城を夫々構築させ基盤を警固なものとする。

・・・・・・1365=36歳 :

足利義満将軍1368=39歳 : 摂津国中嶋郡江口五箇荘に踏み入り乱暴し、幕府に命じられた播磨守護職の兄則祐に止められ、領家雑掌安威資脩に交付されたため、これを不満とし、**再び南党として兵を起こしたが敗れ、三田に帰る。**

観世父子登場1374=45歳 :

義満親政始・1379=50歳 :

義満准三后・1383=54歳 :

南禅寺トップ・1386=57歳 : **『このまま朽ち果ててしまうよりは』と、京都に攻め寄せたが、将軍を討ち取ることを叶わず、播磨国に退いたが、幕府から、山名氏清を大将とする討伐軍を差し向けられ、籠城するうち、新たに管領細川頼元を大将とする大軍勢が派遣されると聞き、これ以上罪を作っては悔いを後世に残すことになる、と、自害した。**